

国際交流基金学識者招聘プログラム（短期）実施報告書

明治大学政治経済学部 教授

明治大学大学院教養デザイン科 教授 虎岩直子

招聘者指名 Margaret Olivia Kelleher

所属機関 University of Dublin/ Professor

招聘期間 2017年10月12日～10月21日

Margaret Kelleher 教授は IASIL (International Association for the Studies of Irish Literatures) というアイルランドについての人文学的研究最大の学会長を 8 年間勤めてきた当該研究の第一人者である。また、デジタルヒューマニズムという新しい研究方法と視点の整備を行いつつ、歴史・文学・社会学の分野横断的研究を進めている。2017 年度は日本アイルランド友好条約提携 60 周年にあたって、様々な学問領域でアイルランド研究が新たな局面を迎えようとしているなかで、人文科学領域をアイルランド国内外でリードし、デジタル媒体による学術資料のアーカイブ構築、文化コンテンツの分析、学術成果の公開や展

示の方法などを具体的に示す本研究者を招聘することは、アイルランド研究のみならず、人文学研究全分野が現代社会のなかで担う意味を最新の研究方法を駆使して考察する上で大きな意味を持つものであった。講演会は以下の通りである。

第1回目：10月18日 2時間目 (和泉キャンパス)

タイトル： **“An Introduction to Irish Culture”**

出席者約60名 (内学外5名)

概要：学部学生が出席者の大半を占める予定であったので、アイルランドの歴史文化入門的なレクチャーを行うように要請した。19世紀半ばから21世紀の大きな出来事 -- ジャガイモ飢饉、第一次世界大戦と対英戦争、同性婚法制化など -- について、個人史に言及しながら、それぞれの出来事を背景に書かれた詩を読み解いていくレクチャーは、アイルランドのことについてほとんど知識のなかった学生たちに、文化と政治の結びつき、そしてなによりも具体的な時間と空間の中で生きる人間というものを実感させるものであった。公演後の感想として、全く知らなかったアイルランド文化を身近に感じたこと、そして政治や歴史の新しい見方に触れられたことについて意義深かった、というも

のが多くあった。

第2回目：10月18日 3時間目 (和泉キャンパス)

タイトル：“**Irish Literary Studies and Digital Humanities**”

主席者約15名

概要：このレクチャーは研究者や大学院学生を対象としたものである。アイルランドの人文社会学的な資料がどのようなかたちでデジタル化されているか、そしてデジタル化された資料がどのように結びつき得るか、ということを経々なサイトを紹介しながら説明した。アイルランド研究専門ではない研究者や院生に、これからの研究方法として、資料をデジタル化して様々な情報をむすびつけていくことの重要性を示唆した。



## Key Dates and Historical Facts

- 1845-1851 Great Irish Famine causes death of over 1m people and c. 1 million people emigrate between 1846 and 1851 (pop. Island of Ireland in 1841 was 8.5 million; in 1851 6.5 million)
- 1881 more than one third of all Irish-born people alive at time lived outside of the country
- 1916 'Easter Rising': short-lived rebellion against British government (mostly in Dublin)
- 1918 Vote granted to women over 30
- 1919-1921 Irish War of Independence
- 1922-1923 Irish Civil War (those for versus those against establishment of Irish Free State: Independence for 26 of 32 Irish counties; 6 Northern Irish counties remain in UK)